日本声楽発声学会

第 119 回例会
臨時総会

令和 8 年(2026 年)11 月 29 日(日)
9:55～16:35(受付:9:30 より)

東京藝術大学音楽学部

大講義室(5−109)・第1ホール

(JR 上野駅公園口より徒歩 10 分)

上のQRコードを読み取り例会アンケートにご協力ください(2026年12月15日まで)

(お願い)
① 携帯電話等音の出るものはマナーモードに設定するか電源をお切りください。
② 関係者以外の録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。(本学会では記録・ネット配信用として録音・録画をいたしますが、それ以外は個人情報および著作権保護のため、厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。お顔など撮影不可の方は受付にお申し出ください。)
③ 体調管理はご自身の責任で行ってください。体調不良の場合は無理をせず、事務局スタッフや理事にお知らせください。

総合司会: 副会長 池田京子

開会挨拶 9:55～10:00　　会長 佐々木正利

A. 研究発表 10:00～11:05(5-109 大講義室)　　司会: 副会長 池田京子

1)10:00～10:25　　座長:三枝英人

発表者:藏當辰彦(医療法人仁雄会穂高病院), 岡村実和子(ソプラノ), 下條広野(ソプラノ)

発表題目:超音波舌画像(UTI)を用いたオペラ歌唱における舌安定性の可視化―A-line 様／Barcode 様 Artifact を指標とした教育的・生理学的検討―

10:25～10:30 質疑応答

2)10:35～11:00　　座長:上杉清仁

発表者:森幹男(福井大学工学部), 梅村憲子, 陣内直(福井大学教育学部), 宮本大輔(福井大学医学部)

発表題目:発声効率改善に関する一検討

11:00～11:05 質疑応答

3)11:10～11:35　　座長:竹田数章

発表者:山口智(日本医科大学附属武蔵小杉病院耳鼻咽喉科), 三枝英人(東京女子医科大学附属八千代医療センター耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科)

発表題目:発話時の咽頭の機能生理学的研究

11:35～11:40 質疑応答

～～～

B. 特別講演 13:00～15:00(5-109 大講義室)

講師:小畑恒夫　Obata, Tsuneo　　司会:佐々木正利

演題:「20 世紀末のベルカント復興以後の価値観の大転換に関して～オペラ歌唱史や歌手等の逸話を交えて」

概要:20 世紀末にヨーロッパで起きた「ベルカント」の研究とその復興は、オペラ界に未知の世界を開き、旧来の価値観を一変させました。この歴史的転換を誘発したのは 19 世紀後半に始まった音楽学の「実証主義」であると考えられます。ロマン主義的に歪められたバッハやベートーヴェンを「原典版」によって再発見するという流れは、ほぼ同時期に起きた古楽復興の流れと補完し合い、クラシック音楽への科学的・実証的アプローチを進展させました。この大きな潮流は 1970 年以降に、オペラの領域にも本格的に移植されます。

本講演では、オペラ歌唱史におけるこの大転換をリアルタイムで体験した立場から、「ベルカント」復興の黎明期から今日までのオペラ界の変化を、歌唱史を軸にお話しします。中心になるのはベルカントの研究・復興・実践を推進した、イタリアの2つの教育機関です――①音楽学者ロドルフォ・チェッレッティが主導したマルティナ・フランカ音楽祭のベルカント・アカデミー、②音楽学者・指揮者アルベルト・ゼッダが立ち上げたペーザロのアカデミア・ロッシーニアーナ。この2つのアカデミーは現代を代表する綺羅星のようなスターたちを輩出しました。

講演の後半では、実証的な歌唱研究から再評価されるマヌエル・ガルシアの「声楽教本」、またその弟子たちによる「声楽教本」の意味や価値、それが書かれた歴史的背景について、さらに日本の教育現場で使われる歌唱教材の在り方についても言及します。

小畑恒夫(おばたつねお　Obata, Tsuneo)



1975 年東京藝術大学声楽科卒業。1978 年から 10 年間イタリア留学。帰国後、東京コンセルヴァトアール尚美、武蔵野音楽大学、昭和音楽大学等に務めながら教育・研究・評論分野で活動する。2006 年から 2020 年まで昭和音楽大学教授。現在は同大学客員教授。日本音楽学会会員。NPO 日本ヴェルディ協会理事長。主な研究分野はオペラ史、イタリア・オペラ歌唱史。「音楽の友」「レコード芸術 ONLINE」等で音楽評論活動を展開。またオペラを中心に公演プログラムへの寄稿、NHK・FM でのオペラ解説、市民講座等で啓蒙活動を行なうほか、映像ディスクのライナー・ノート、オペラ台本の翻訳やオペラ映像字幕も手がける。著書に『ヴェルディ』(音楽之友社)、『ヴェルディのプリマ・ドンナたち――ヒロインから知るオペラ全 26 作品』(水曜社)。共著に『スタンダード・オペラ鑑賞ブック』(音楽之友社)、『つながりと流れがよくわかる西洋音楽の歴史』(共著／アルテスパブリッシング)。主要訳書にタロッツィ『評伝ヴェルディ』(草思社)、ニコラーオ『ロッシーニ　仮面の男』(音楽之友社)がある。なお現在「日本ヴェルディ協会会報 *Verdiana*」にヴェルディの手紙(作品編)を翻訳・連載中。

14:40～15:00　質疑応答

C. 現役演奏家の演奏とお話 15:20～16:30（第1ホール）

講師：松木千俊 Matsuki, Chitoshi　　松木崇俊 Matsuki, Takatoshi　　司会：竹田数章

演目：『橋弁慶』『高砂』『羽衣』『屋島』

概要：能楽の謡の発声についてわかりやすくお話しします。まず、能の舞台を支えるシテ方、ワキ方、狂言方、囃子方それぞれの役割をご紹介し、能楽がどのような人々の協働によって成り立っているのかをお伝えします。

続いて、謡の声の高さや調子、テンポについて、実際に声を出しながら解説します。能の謡は、同じ曲であっても毎回まったく同じように進むとは限りません。謡い始めから声の高さが次第に上がることや、地謡を率いる地頭との呼吸など、舞台上での音の作られ方にも触れます。また、強吟・弱吟・コトバの違いを、『橋弁慶』『高砂』『羽衣』の一節を用いてご紹介します。それぞれの謡の違いは、言葉だけでは伝わりにくいため、実際の声を聞き比べながら感じていただきます。

リズムについては、拍子に合う「拍合」と、拍子に合わない「拍不合」を取り上げ、平ノリ・中ノリ・大ノリの特徴を実演とともにお聞きいただきます。また、謡に合わせて舞う仕舞『屋島』『羽衣』や、笛に合わせて舞う「盤渉早舞」もご覧いただきます。能面をかけて謡う実演では、面をかけた姿と声に間近で触れていただきます。

講演の終わりには、参加者の皆さまと一緒に『高砂』を謡い、質疑応答の時間も設けます。実際に声を出すことで、謡ならではの言葉の運びや息づかい、リズムを体感していただければと思います。聞いて、見て、声を合わせながら、能楽の声の世界を楽しんでいただくひとときとなれば幸いです。



講師：松木千俊（まつきちとし Matsuki, Chitoshi）
重要無形文化財総合指定保持者、一般社団法人「松の会」代表理事、公益社団法人「能楽協会」所属、一般社団法人「日本能楽会」所属、一般社団法人「観世会」理事、各種舞台公演を主催、長野県坂城町特命大使。東京藝術大学邦楽科卒業。1962 年（昭和 37 年）観世流能楽師シテ方松木家3代目として誕生。三歳で初舞台。平成元年独立後、「石橋」「道成寺」「安宅」「卒都婆小町」「翁」「正尊」など披曲。「檀の会」「松能会」「松謳会」を主催。能楽師として、能楽特有の「幽玄な世界」や「物語」を自身の生き方として捉え、各種舞台を勤める傍ら、一般社団法人松の会代表として能楽の普及活動に力を入れている。「身近に能楽を観る・聞く・識る」という能楽のワークショップを各地で開催。



講師：松木崇俊（まつきたかとし Matsuki, Takatoshi）
1991 年 6 月 5 日生（平成 3 年）四代続く、観世流シテ方能楽師松木千俊の長男として誕生。一般社団法人「松の会」所属、一般社団法人「観世会」会員、公益財団法人「能楽協会」会員。東京藝術大学邦楽科能楽専攻別科修了。1995（平成 7）年仕舞「老松」にて初舞台。2002（平成 14）年「俊成忠度」にて初シテ。2007（平成 19）年「経正」にて初面。近年「小鍛冶」「巻絹」「羽衣」「殺生石」を勤める。ワークショップや子供教室を通して幅広い世代に能楽を知ってもらい、自身も精進を重ねる。

16:15～16:25 質疑応答

閉会挨拶 16:25～16:30　　池田 京子